

自己評価の結果について

令和5年度

学校法人旭川カトリック学園 天使幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己肯定の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・モンテッソーリ教育による自主選択活動を通して、人生の基本である自由・責任・集中力・自立心を養う。
- ・3・4・5歳縦割りクラスの中で、思いやり、尊敬、自他との調和を体得し、社会性を育てる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・保育カリキュラムは、カトリックの教えを基に教育目標を立て、園児の発達を見通して作成している。・モンテッソーリ教育を取り入れ、園児が主体的に活動に取り組んでいけるように環境を構成している。・3～5歳の異年齢縦割りクラスでお互いに尊重し、思いやりをもって仲良く過ごし、協調性や社会性が育っている。・水曜日のコーナー保育では、自ら興味を持って自由にコーナーを選び、異年齢や他クラスとの友達との交流を深め楽しんで行っている。・移動動物園を呼んで、全園児が実際に動物にふれあう機会を作った。また、出前サイエンスショー、オーケストラ、人形劇を鑑賞できる機会を作り、園児の豊かな情操を育成することにつながってきた。

<p>2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒・換気などを行いながら、行事や保育も徐々にコロナ禍以前の形に戻していった。全園児で行事に参加することで縦割りの関わりが増え、年長児は下の子への優しい気持ちが育ち、年中年少児は次年度への憧れに繋がっている。 ・ 園児の健康的な生活を守るため、常に園医と連絡をとり指導をうけている。 ・ ヒヤリハット報告書を作成、活用することで、子ども達の事故や怪我を防ぐとともに、教職員間で共有していく。 ・ 懇談会や参観日等の保護者参加の行事は、人数制限をしないでたくさんの保護者が園の様子を実際に見ることができるように設定した。 ・ 預かり保育は夏休み・冬休みなどの長期休暇期間も給食を申し込みできるようにして、保護者のニーズに応えてきた。
<p>3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児のありのままの姿を受け止め、性格や年齢及び発達段階に即した援助の仕方を工夫する。 ・ 園児のことや、クラスの出来事などで必要なことなどを日々の打ち合わせで伝え、教職員間で共通理解を深める。報告・連絡・相談をし、一つのチームとして、互いに協力し助け合う。 ・ カトリック幼稚園の教職員として、保育時間外でも保育者としての自覚をもった言動を心がける。
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月発行する園だよりや年3回の学年ごとの懇談会で、子ども達の様子や園の考えを保護者に分かりやすく伝えていくように心がけた。 ・ 園への要望など保護者のニーズには丁寧に耳を傾け、園の教育方針や事情を理解していただきながら検討し、対応している。 ・ 年4回クラスだよりを発行し、写真などでクラスの様子を知ってもらい、園生活の様子を伝えている。 ・ ホームページのブログだけではなく、インスタグラムを開設し、園生活の様子を保護者に伝えている。 ・ バスロケを終了し、11月より登降園アプリの『コードモン』を導入した。保護者が保護者の携帯アプリから欠席・預かり保育の連絡ができるようになった。また保護者への連絡はアプリからお知らせしている。また保護者会出欠の集計などもアプリから行い、迅速に保護者に連絡ができるようにした。 ・ 預かり保育は夏休み・冬休みなどの長期休暇期間も給食を申し込みできるようにして、保護者のニーズに応えてきた。

<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伏古公園など近隣の公園に行き、冬には美香保公園で雪遊びすることができた。円山動物園や定山溪のいちご狩り、八紘学園へのりんご狩り等も行い、園外保育を楽しむことができた。 ・ 年間を通して13回の園開放を行い、地域の未就園児親子が遊ぶことができるように設定した。また未就園児クラス『おひさまクラブ』などと合同で行うことで未就園児クラスの入会へも繋げていくことができた。 ・ 未就園児クラス『おひさまクラブ』を1歳3か月から参加できるように対象年齢を下げ、低年齢からの子育て支援に努めている。 ・ 来年度4月より子育て支援の一環として2歳児クラスを開設し、小さいうちから集団生活に慣れて園生活を行えるように保護者のニーズに応じている。 ・ 東区幼保小連携推進協議会議に参加し、小学校との幼少連携を進めていくための話し合いを行った。保護者の承諾を得た上で必要な児童の情報を小学校に伝え引継ぎ、円滑な幼少連携に努めてきた。 ・ 近隣の小学校へ実際に行き、運動会の練習の見学、1年生と製作や、高学年と学校グラウンドで鬼ごっこをするなど交流を深め、幼小連携を行うことができた。 ・ 東区交通安全運動推進委員会の方に来ていただき、交通ルールの大切さを学んだ。
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ モンテッソーリ教師養成コースで勉強し、理論や実技を学んでいる。長期休みにはモンテッソーリ教育の園内研修を行い保育者間の意識を高めてきた。 ・ 日本モンテッソーリ協会(学会)第55回全国大会にオンラインで参加し、モンテッソーリ教育の専門性を高められるよう勉強した。その他、北海道カトリック幼稚園教職員研究大会、札私幼研究大会の全体講演会や、札幌市幼稚園新人教諭研修、特別支援研修、東区幼稚園研修、旭川カトリック学園研修、リーダー研修会などにもオンラインや対面での研修に参加した。
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年を振り返って各保育者は自己評価を行った。結果は年度末のクラス代表の保護者で構成される役員会で伝え、学校関係者評価をもらい、ホームページで公開する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 園の教育目標や保育計画について、日々の保育を振り返り自己評価を行い、個々の課題を具体的にすることができた。
- ・ 教職員全員で報告・連絡・相談をし、チームとして助け合いながら日々の保育に努めてきた。今後も保護者に丁寧に教育方針や子供の成長について伝えていき、信頼関係を築き、様々な専門家との連携をとり、学びを深めていく。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯対策として、園児・保護者・教職員にとって安全な環境であるために玄関電気施錠を行い外部からの侵入者を防いでいる。 ・ セコム防犯システムに加入し、外部からの侵入者を防ぎ、玄関や各部屋からの侵入の対策を行う。園児や保護者、教職員が安心して園生活を行えるように設置している。 ・ 緊急時に備え、園内にAEDを設置している。4月に園内研修として病院の出前救命救急講習を行い、AEDの使い方や緊急時の対応などを学んだ。 ・ 消防法を踏まえて施設設備の安全管理に努め、年2回の避難訓練(火事・地震)を行った。また、災害時のため、全園児分のアルミブランケット・保存用ビسケット・飲料水を備蓄している。 ・ 新しい園バスになり、安全装置の義務化に伴い、安全装置をとりつけた。ハイエースにも同様に安全装置をつけると共に、SOS ボタンをとりつけ、バスの置き去り防止に備えている。また、バス乗車のマニュアルを全職員で把握し防止に努めている。園児にもバスのクラクションの訓練を行い、非常時に対応できるようにしている。 ・ 毎朝担任が点呼し出欠確認を行い、その後クラスの当番が出欠を園長に報告し出欠ボードと照らし合わせるなど園児の出欠の把握を徹底している。 ・ 園児の命を守ることを最優先に考え、文部科学省・教育委員会からの指導、状況把握や情報収集などを基に感染拡大防止対策を実行していく。 ・ 災害時等保護者への緊急連絡のためドコモの「どこですcar」によるバスロケサービスのメールを利用していたが、登降園システム『コードモン』を導入し、保護者に迅速に連絡が取れるように整えていく。 また登降園をQRコードで打刻し、園児の出欠をしっかりと把握していき、登降園の管理を行っている。 今後はコードモンのシステムを活用しながら、アンケートや資料室など保護者との連携をとっていく。 また、コードモンのバス位置情報でバスの運行情報を伝え、保護者の待ち時間などの負担を軽減している。

<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達に気になることがある園児や特別な支援を要する園児に対しては、保護者とよく話し合い理解を深め、東区幼児教育支援員、各関係機関と連携・協力しながら指導計画を立て、支援している。また、発達と学びの連続性を確保するため小学校との連携を密接にしていく。今後教職員でも援助について具体的にケースワーク会議を定期的に行っていき、協力して体制を整えていく。 ・ 特別支援教育に関する研修を受け、日常的な保育の場面で活かせるように努めていく。
<p>園に対する保護者の満足度の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の心配事や悩みには丁寧に話を聞き、迅速に対応することを心がけている。 ・ 保護者会では園の教育方針や行事などについて丁寧に伝えていくように努めているが、参加できない保護者への発信ができるように『コドモン』でのお知らせや紙面などを利用しながら情報提供していく。またバス通園の園児が増えていることもあり、普段の子ども達の様子を伝えきれないため、ホームページやインスタなど発信しながら子どもの成長を伝えていく。 ・ 行事など保護者が園に来た際に、保育者が保護者に園の活動の様子を伝え、保護者からは家庭の様子を聞くなどコミュニケーションをとれるように努めている。 ・ 保護者に「夏休み・冬休みの様子」や「卒園によせて」を書いてもらい、園長・担任が読んで、子どもの家庭での様子や日々の成長、保護者の思いを理解していく。また、昨年に引き続き卒園児・在園児にアンケートを実施していき、保護者のニーズを知り、今後のより良い園づくりにつなげていく。

6. 学校関係者の評価

各組・各学年のクラス代表の方に、本園の行った自己評価の内容についてご意見、ご感想をいただきました。

1. 保育の計画性

- ・ モンテッソーリ教育のおかげか物事に集中して取り組む力がついてきていると思う。縦割り保育で小さい子の面倒をみることは心の成長にもつながっていると感じる。
- ・ 園児の発達に沿った保育カリキュラムが作成されていると思う。
- ・ モンテッソーリ教育のため、自分で考え選び行動するという主体性や、家庭ではなかなか教えることができない「席について物事に取り組む」ということを身につけることができる。
- ・ 異年齢の縦割りクラスで上下関係を学び、私がしてもらったように、小さい子にもしてあげたいという思いやりの気持ちが育つ。
- ・ 他のクラスの子や普段使わない教室などで遊べるため、水曜日のコーナー遊びをととても楽しみにしている。
- ・ 移動動物園では動物の可愛さと同時にエサのあげ方・どんな風に食べるのか(少しかじられた!)など実際近くで観察することができるので貴重な体験となった。
- ・ 出前サイエンスショーやオーケストラ、人形劇など多岐にわたって経験することができたので興味の幅が広がったと思う。

2. 保育の在り方及び対応

- ・ 清潔に保たれた園舎の中、園庭や園児が過ごす場所や触れる物などに危険がないよう整え、保たれている。(園バス含め)

- ・最大の強みであるモンテッソーリ教育も感染症などの流行する中でもうまく工夫され学びを止めず、縦割りクラス編成により子供達は思いやりの経験を沢山受け、年を重ねお返しする心が育まれる。憧れ希望を胸にまた小さなお友達に年を重ね進級することができる。
- ・コロナ禍同様、消毒や換気などきちんとされているので安心して子供を通わせることができます。行事や保育も注意を払いながらコロナ禍前の制限がない状態に戻して下さっています。
- ・常に園医と連絡をとり指導を受けられているので、何かあればすぐに対応できる状態であるのは親として安心する。
- ・ヒヤリハット報告書の作成、報告書を共有することで大きな事故や怪我を未然に防ぐことができると思う。
- ・参観日では人数制限がなく見ることができたので子供たちはもちろん、保護者も普段見ることができない子供たちの成長した姿を見ることができて嬉しいと思う。
- ・長期休暇期間の預かり保育で給食を申し込みできるようになったことで保護者の負担が少し減って助かると思います。

3. 保育者としての資質

- ・子供の事を第一に考え、向き合ってくれている。
- ・子供だけではなく、保護者の意見も親身になって、聞き入れてくれ対応してくれている。
- ・日頃の子供達の様子を SNS 等を通して、前よりも知ることができるのがうれしい。
- ・子供の悩みを書面で相談させてもらったのですが、帰宅後の子供の様子を見て、そして話を聞いて、先生方がすぐに動いて下さっているのが分かりました。園に行った時には、その後の子供の様子を細かく教えて下さり、どの先生も子供の性格を理解した上で対応してくれていることを実感しました。

4. 保護者への対応

- ・園での日常やイベントの様子をブログやインスタグラムにて発信して頂き、子供達が楽しそうに活動しているのが良く伝わってきます。
- ・クラスだよりは、写真とコメントをたくさん掲載し、クラスの子供達が全員均等に写っているのかを確認し、作成するのはとても大変だと思います。ありがとうございます。いつも発行を楽しみにしています。
- ・『コドモン』の導入により、電話ではなく欠席・預かり保育の連絡ができるようになりました。予定が決まっている場合前もって登録することができ、感染症が流行中の時は、欠席の電話が繋がりづらい事が多く、朝に何度もかけ直さなくてよくなったので保護者のニーズに合っていると思います。
- ・出欠の集計も迅速に回答できるので、引き続き継続してほしいです。
- ・登降園アプリが導入されてから、園への連絡が格段に便利になり助かっている。

5. 地域社会との連携

- ・例年訪れていた円山動物園や八紘学園のりんご狩りだけではなく、八剣山果樹園のいちご狩り、大通公園、こまどり公園、伏古公園、美香保公園などに行き園外保育を楽しむことが出来た。
- ・年間を通して、13 回の園開放と「ミニ運動会」なども行い、地域の未就園児親子が遊ぶことができるように設定した。
- ・幼小連携について、今年度は年長児が北光小で運動会の練習を見学、中央小で 1 年生と製作、北 9 条小では、グラウンドで交流するなど進めてきた。また、北光小の先生が幼稚園の様子を見学にきた。今後も継続していく。
- ・幼小連携がとてすばらしかったです！実際に小学校へ行くことで小学校ってどんなところ？なにをするの？など具体的にイメージすることで子供たちも安心して入学への気持ちをもっていけているように思います。
- ・東警察署の交通課や交通安全推進委員会の方などから交通安全について学び、地域社会との連携もとれていたように思います。

- ・コロナ禍で行事がなくなってしまった世代ですが、本当にたくさんの園外保育、行事を楽しませていただきました！
- ・コロナ禍をはさみ、縮小した行事などをまた再開するのは本当に大変だったと思いますが、いつ幼稚園に行っても、先生も子供も笑顔でのびのび楽しそうで、たくさんの行事をすごく雰囲気の良い中保育していただいた事、本当に感謝です！一生懸命企画、開催して頂き、天使幼稚園に通うことができ、本当に親子共々幸せでした！ありがとうございました！

6. 情報公開

- ・今年度からインスタの投稿が始まり、不特定多数の方が見れて子供達の顔を SNS に掲載するのはと言う心配な声があったが事前に掲載の可否を確認し、編集など大変だと思うがブログには掲載がない動画が見れてより園での様子が見れて良いと思った。
- ・園だよりに書いてあるがおにぎり Day やお弁当 Day、正装の日は前日にアプリで知らせてくれるのとても良かったので引き続きお願いしたい。
- ・保育活動については、クラス便り等で頻繁に公開されています。保護者にとっては、子供たちの日々の様子を知る手段として有用です。
- ・自己評価結果は年度末の役員会で紙面にて提示され、HP にて公表されております。今後も、保育の質を向上させるための具体的な改善策を検討できることを願っています。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽A S G 有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。